【別添－３】

ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）計画書

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| チェック欄  ※実施項目に☑ | 施工プロセスの段階 | 作業内容 | 採用する  技術番号 | 技術番号・技術名 |
|  | ①３次元起工測量 |  |  | １．音響測深機を用いた起工測量  ２．その他の３次元計測技術を用いた起工測量  　〔２．を選択した場合の技術名称：　　　　　　　　　　　　〕    ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 |
|  | ②３次元設計データ作成 |  | | ※３次元出来形管理に用いる３次元設計データの作成を実施しなければならない |
|  | ③ＩＣＴ建設機械による施工 | 【作業工種】  ・浚渫工（バックホウ浚渫船） | | 3次元MCまたは3次元MG建設機械  ※ＭＣ：「マシンコントロール」の略称、ＭＧ：「マシンガイダンス」の略称  ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲については、受注後の協議により決定する。  ※当該工事に含まれる左記作業の工種のいずれかで、ＩＣＴ建設機械を活用すれば良い。 |
|  | ④３次元出来形管理等の施工管理 | 出来形 |  | １．音響測深機を用いた出来形管理（経費補正適用）  ２．施工履歴データを用いた出来形管理  ３．その他の３次元計測技術を用いた出来形管理  　（※「１」に類似するその他の３次元計測技術を用いた場合、経費補正適用）  　〔３．を選択した場合の技術名称：　　　　　　　　　　　　　〕  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。  ※「①３次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。 |
|  | ⑤３次元データの納品 |  | |  |

注１）ＩＣＴ活用工事の詳細については、「ＩＣＴ活用工事（河川浚渫）試行要領」及び特記仕様書によるものとする。

注２）採用する技術番号欄には、複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。

（「採用する技術番号」欄の記載例 ： 「１」，「１，３」）

注３）①、④において、「その他の・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。

注４）一部活用の場合は、下表にあるタイプを採用すること。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセス区分 | ＩＣＴ 全活用 | ＩＣＴ一部活用 | | | | |
| タイプ① | タイプ② | タイプ③ | タイプ④ | タイプ⑤ |
| 1）３次元起工測量 | ○ | ○ | － | － | ○ | － |
| 2）３次元設計データ作成（必須） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3）ＩＣＴ建設機械による施工 | ○ | ○ | ○ | ○ | － | － |
| 4）３次元出来形管理等の施工管理 | ○ | － | ○ | － | ○ | ○ |
| 5）３次元データの納品（必須） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |